

2009

平和の聲が地球を包む年に

花開かせよう!! 日本国憲法

武力でテロは無くならない

今こそ、憲法9条に基づく平和外交を

新しい年、2009年が始まりました。今年は、世界と日本の平和を求める声をさらに大きく広げ、平和の聲が地球を包み、人類の歴史が平和へと前進する年としたいものです。

アメリカでは、「変革」「イラクからの撤退」を掲げたオバマ氏が大統領に当選。「核兵器のない世界を目指す」と等と明言。その一方で、「テロとの戦いの主戦場はアフガニスタン」としてアフガニスタンへの軍隊の増派を明言するとともに、同盟国に対しても増兵、軍事費負担などを求めています。

しかし、アメリカが始めたアフガニスタンやイラクでの戦争で、テロは一気に世界中に拡大。「戦争でテロはなくなる」ということは明らかです。

ところが、自民・公明両党は昨年、アフガニスタンで爆撃を行う米軍等へ無料の給油を続ける新テロ特措法の延長法案を、衆議院の再議決まで行って強行成立させました。

子どもたちの未来へつなげよう

アフガニスタンでの戦争で、アメリカは日本に、給油だけでなく、2兆円の戦争の経費負担とともに、米軍と一



緒に軍事行動を行う軍隊の派兵を強く要求しています。国会には、民主党からも、アフガニスタンに陸上自衛隊を送る

アフガニスタンでは、政府と武装勢力のタリバンとの平和交渉が始まっています。そんなに、米軍らの空爆に日本が手を貸すことは許されません。

今こそ日本は、「平和憲法」の理念を活かし、話し合いによる紛争解決のために役割を果たすべきです。



という案が出されています。この案をめくり、自民党は「いっしょに自衛隊の海外派兵恒久法をつくる」と民主党へエールを送り、民主党議員もこれに答え、「政権を握れば憲法解釈をかえる」と発言。「改憲」のための「憲法調査会も粛々とすすめればいい」とも答弁しています。また、ソマリア沖の海賊問題を利用した、自衛隊の海外派兵の策動もできています。

みなさん、改憲や憲法の解釈を変えて自衛隊の海外派兵の拡大に反対する世論を高めましょう。憲法を守り、輝かせ、子どもたちの未来へつなげるために、一緒に行動しましょう。

